

4/17/1

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

013839844 **Image available**

WPI Acc No: 2001-324057/ 200134

Packet communication system for stream encryption system, has encryption key setting unit by which encryption key for every packet is changed using dummy random number sequence

Patent Assignee: TOYO COMMUNICATION EQUIP CO (TOCM)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2001086110	A	20010330	JP 99258447	A	19990913	200134 B

Priority Applications (No Type Date): JP 99258447 A 19990913

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 2001086110	A	7	H04L-009/18	

Abstract (Basic): JP 2001086110 A

NOVELTY - A packet generator (11) generates several data packets. An encryption key setting unit (13) generates dummy random number sequence to change the encryption key for every packet as its initial value. A stream encryption unit (12) performs encryption of portion of packet information using binary dummy random number sequence.

DETAILED DESCRIPTION - A key storing unit (14) stores the encryption key information as a part of packet information. A packet transmitting unit (15) sequentially transmits the packets each consisting data portion and encryption key information.

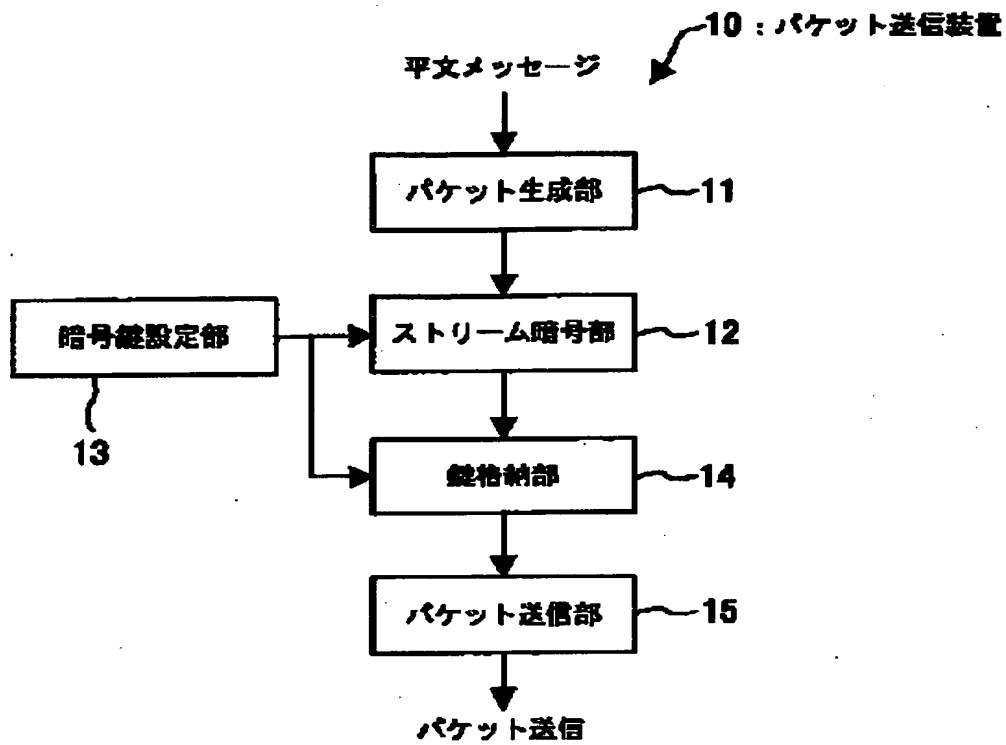
USE - For stream encryption system.

ADVANTAGE - Synchronization of encryption key modification is not needed for the encryption key modification. Hence, problem due to the slippage of synchronization and hardware loading are avoided.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the block diagram of the packet transmission device. (Drawing includes non-English language text).

Packet generator (11)
Stream encryption unit (12)
Encryption key setting unit (13)
Key storing unit (14)
Packet transmitting unit (15)
pp; 7 DwgNo 1/9

C:\Program Files\Dialog\DialogLink\Graphics\29.bmp



Derwent Class: W01

International Patent Class (Main): H04L-009/18

International Patent Class (Additional): H04L-009/08; H04L-012/56

?

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-86110

(P 2 0 0 1 - 8 6 1 1 0 A)

(43) 公開日 平成13年3月30日 (2001. 3. 30)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I		テーマコード (参考)
H04L 9/18		H04L 9/00	651	5J104
9/08			601	C 5K030
12/56		11/20	102	Z

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-258447

(22) 出願日 平成11年9月13日 (1999. 9. 13)

(71) 出願人 000003104

東洋通信機株式会社

神奈川県高座郡寒川町小谷2丁目1番1号

(72) 発明者 力石 徹也

神奈川県高座郡寒川町小谷2丁目1番1号

東洋通信機株式会社内

(74) 代理人 100098039

弁理士 遠藤 恭

Fターム (参考) 5J104 AA01 AA16 AA34 EA02 JA04

NA02 NA04 NA23 NA37 PA00

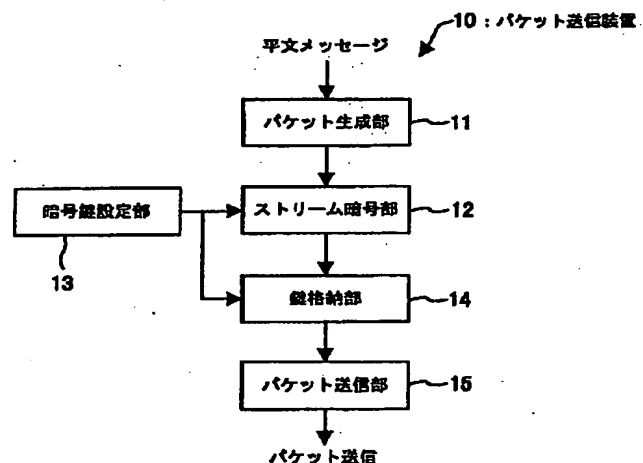
5K030 GA14 GA15 JA05 KA17

(54) 【発明の名称】 暗号化情報のパケット通信システム

(57) 【要約】

【課題】 暗号鍵の変更の同期を必要とせずに、暗号鍵の変更を実現した暗号化情報のパケット通信システムを提供する。

【解決手段】 本発明におけるパケット送信装置は、送信する情報を、複数のパケットにするパケット生成手段11と、前記パケット毎に変更される複数の暗号鍵のうちの一つを初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記複数のパケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で暗号化するストリーム暗号化手段12と、前記暗号化された情報の部分を格納したパケット内に、該暗号に用いられた暗号鍵を格納する鍵格納手段14と、前記暗号化された情報の部分及び前記暗号鍵を格納したパケットを、順次送信するパケット送信手段15とを備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 送信する情報を、複数のパケットにするパケット生成手段と、

前記パケット毎に変更される複数の暗号鍵のうちの一つを初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記複数のパケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で暗号化するストリーム暗号化手段と、
前記暗号化された情報の部分を格納したパケット内に、該暗号に用いられた暗号鍵を格納する鍵格納手段と、
前記暗号化された情報の部分及び前記暗号鍵を格納したパケットを、順次送信するパケット送信手段と、を備えたことを特徴とする暗号化情報のパケット送信装置。

【請求項2】 送信する情報を、複数のパケットにするパケット生成手段と、

所定数の前記パケット毎に変更される複数の暗号鍵のうちの一つを初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記複数のパケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で暗号化するストリーム暗号化手段と、

前記暗号化された情報の部分を格納した、連続して送信される前記所定数のパケット内に、該暗号に用いられた暗号鍵を、該暗号鍵を構成するビットで分割して格納する鍵格納手段と、

前記暗号化された情報の部分及び前記暗号鍵の部分を格納したパケットを、順次送信するパケット送信手段と、を備えたことを特徴とする暗号化情報のパケット送信装置。

【請求項3】 請求項1記載のパケット送信装置からのパケットを順次受信するパケット受信手段と、

前記受信したパケットから前記暗号鍵を抽出する暗号鍵抽出手段と、

前記抽出した暗号鍵を初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記パケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で復号化するストリーム復号化手段と、を備えたことを特徴とするパケット受信装置。

【請求項4】 請求項2記載のパケット送信装置からのパケットを順次受信するパケット受信手段と、

前記受信した所定数のパケットから前記暗号鍵の部分を抽出する暗号鍵抽出手段と、

前記抽出した暗号鍵の部分から元の暗号鍵を生成する暗号鍵生成部と、

前記生成された暗号鍵を初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記所定数のパケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で復号化するストリーム復号化手段と、を備えたことを特徴とするパケット受信装置。

【請求項5】 請求項1記載のパケット送信装置と、請求項3記載のパケット受信装置で構成されるパケット通信システム。

【請求項6】 請求項2記載のパケット送信装置と、請求項4記載のパケット受信装置で構成されるパケット通信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、暗号化情報のパケット通信システムに関し、特に、ストリーム暗号方式を用いて暗号化・復号化される情報を取り扱う暗号化情報のパケット通信システムに関する。

【0002】

【従来の技術】高速なパケットデータ通信に利用可能な暗号化方式として、ストリーム暗号方式が知られている。ストリーム暗号方式では、所定の暗号鍵を初期値として疑似乱数列を生成し、この疑似乱数列を用いて、送信する情報を順次ビット単位で暗号化する。パケットデータ通信においてストリーム暗号方式を用いる場合、暗号化された情報の部分をパケットに格納し送信する。

【0003】一方で、ストリーム暗号方式を用いて暗号通信を実現する場合、一つの暗号鍵に固定したまま多数の情報を暗号化していると、該暗号化された情報の共通性から暗号の解読が比較的容易になり、暗号強度が低下するという問題がある。このため従来から、ストリーム暗号方式を用いる場合は、暗号鍵を周期的に変更することが行われている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、ストリーム暗号方式においては、情報の暗号化側、すなわち送信者側と、情報の復号化側、すなわち受信者側で、同じ暗号鍵を用いる必要があることから、同期を取って双方の暗号鍵を変更しなければならない。ところが、暗号強度を高めるために暗号鍵の変更を頻繁に行った場合、同期ずれの危険性が高まり、また暗号鍵の変更の際のハードウェア負荷が大きくなるという問題がある。

【0005】また、このような同期に伴う問題を回避するために、図9に示すように、特定のパケット内に、暗号の変更を示すタイミング信号を挿入する方法がある。受信側では、このタイミング信号を検出し、これを境にして使用する暗号鍵を変更することにより、同期を不要としている。しかしながら、この方法によれば、前記タイミング信号を検出するための装置構成が必要となると共に、順次変更する暗号鍵は、依然として予め受信側で管理しなければならないという問題がある。

【0006】従って本発明の目的は、暗号鍵の変更の同期を必要とせずに、暗号鍵の変更を実現し、前記同期に伴う問題を回避した暗号化情報のパケット通信システムを提供することにある。

【0007】本発明の別の目的は、受信側における暗号鍵の管理を不要とした暗号化情報のパケット通信システムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明のバケット通信システムは、下記バケット送信装置及びバケット受信装置で構成される。すなわち本発明のバケット送信装置は、送信する情報を、複数のバケットにするバケット生成手段と、前記バケット毎に変更される複数の暗号鍵のうちの一つを初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記複数のバケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で暗号化するストリーム暗号化手段と、前記暗号化された情報の部分を格納したバケット内に、該暗号に用いられた暗号鍵を格納する鍵格納手段と、前記暗号化された情報の部分及び前記暗号鍵を格納したバケットを、順次送信するバケット送信手段とを備えて構成される。

【0009】一方、本発明のバケット受信装置は、前記バケット送信装置からのバケットを順次受信するバケット受信手段と、前記受信したバケットから前記暗号鍵を抽出する暗号鍵抽出手段と、前記抽出した暗号鍵を初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記バケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で復号化するストリーム復号化手段とを備えて構成される。

【0010】また、本発明のバケット送信装置は、送信する情報を、複数のバケットにするバケット生成手段と、所定数の前記バケット毎に変更される複数の暗号鍵のうちの一つを初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記複数のバケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で暗号化するストリーム暗号化手段と、前記暗号化された情報の部分を格納した、連続して送信される前記所定数のバケット内に、該暗号に用いられた暗号鍵を、該暗号鍵を構成するビットで分割して格納する鍵格納手段と、前記暗号化された情報の部分及び前記暗号鍵の部分を格納したバケットを、順次送信するバケット送信手段とを備えて構成することもできる。

【0011】一方、本発明のバケット受信装置は、前記バケット送信装置からのバケットを順次受信するバケット受信手段と、前記受信した所定数のバケットから前記暗号鍵の部分を抽出する暗号鍵抽出手段と、前記抽出した暗号鍵の部分から元の暗号鍵を生成する暗号鍵生成部と、前記生成された暗号鍵を初期値として疑似乱数列を生成し、該疑似乱数列を用いて前記所定数のバケットに格納される情報の部分を順次ビット単位で復号化するストリーム復号化手段とを備えて構成することができる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、図示した一実施形態に基いて本発明を詳細に説明する。本発明に係るバケット通信システムは、情報の送信者側におけるバケット送信装置と、情報の受信者側におけるバケット受信装置で構成される。本発明に係るバケット通信システムにおいては、基本的に、バケット内にデータを暗号化するために用い

る暗号鍵を格納してデータと共に送信し、該暗号鍵を用いてデータを復号化する手順を取る。以下、この詳細を説明する。

【0013】図1は、本発明の一実施形態に係るバケット送信装置のブロック図を示している。図において、バケット送信装置10は、バケット生成部11、ストリーム暗号部12、暗号鍵設定部13、鍵格納部14及びバケット送信部15を少なくとも含んで構成される。

【0014】バケット生成部11は、送信すべき平文メッセージを複数に分割し、各分割されたメッセージにヘッダーを付加してバケットを生成する。以下では、この分割されたメッセージを平文データ又は単にデータといい、またバケットのこのデータを格納する領域をデータ部という。付加されるヘッダーには、フラグ、送信先アドレス、バケット番号等が含まれる。ストリーム暗号部12は、ストリーム暗号方式によって前記生成されたバケットのデータ部を暗号化する。ストリーム暗号部12の具体的な構成及び動作については後述する。暗号鍵設定部13は、ストリーム暗号部12における暗号化に用いられる暗号鍵を設定する。暗号鍵設定部13には、予め複数種類の暗号鍵が用意され、これらは暗号化するバケット毎に切り替えられる。これによって、連続するバケットの各データ部は、ストリーム暗号部12において、それぞれ異なる暗号鍵を用いて順次暗号化されることとなる。

【0015】鍵格納部14は、ストリーム暗号部12で用いられた暗号鍵を、対応のバケットに格納する。すなわち、鍵格納部14は、ストリーム暗号部12で用いられた所定の暗号鍵で暗号化されたデータを含むバケットに、その暗号鍵を格納する。図4は、送信すべきバケットデータの構成例を示している。図に示すように、データ部1の暗号化に用いられた暗号鍵Aは、そのバケット40に格納される。同様に、データ部2の暗号化に用いられた暗号鍵Bは、そのバケット41に格納され、データ部3の暗号化に用いられた暗号鍵Cは、そのバケット42に格納される。バケット送信部15は、前記生成されたバケットを順次ネットワーク上へ送信する。

【0016】図2は、前記ストリーム暗号部12の具体的な構成例を示すブロック図である。図に示すように、ストリーム暗号部12は、 n ビットの線形フィードバックシフトレジスタ20、非線形関数回路21及び排他的論理和回路22を備える。線形フィードバックシフトレジスタ20には、その初期値として前記暗号鍵設定部13からの n ビットの暗号鍵が設定される。クロック信号に同期してこのレジスタ値は、シフトされ変化される。前記クロック信号に同期してレジスタ値が変化される度に、その各ビット値は、非線形関数回路21に平行に入力される。非線形関数回路21では、入力されたビット列を非線形変換し、クロック毎に1ビットを疑似乱数として出力する。出力された疑似乱数は、排他的論理

和回路22に与えられる。従って、一つのレジスタ値に対して、一つの疑似乱数が得られ、線形フィードバックシフトレジスタ20のレジスタ値がnビットシフトされた時点で、n個の疑似乱数の組（以下、疑似乱数列という）が出力される。

【0017】排他的論理和回路22には、クロック信号に同期して、パケット生成部11からのnビットの平文データと前記疑似乱数列が、ビット単位で入力される。平文データの各ビットは、順次疑似乱数列の各ビットと排他的論理和演算され、それが暗号化データの1ビットとして出力される。nビットのデータに対し、順次排他的論理和演算が終了することによって、nビットの暗号化データが得られる。

【0018】図3は、メッセージの受信側に設置される本発明の一実施形態に係るパケット受信装置のブロック図を示している。図において、パケット受信装置30は、パケット受信部31、暗号鍵抽出部32、暗号鍵設定部33及びストリーム復号部34を少なくとも含んで構成される。

【0019】パケット受信部31は、前記パケット送信装置10からのパケットを順次受信する。受信されたパケットは、図示しないバッファに一時的に保持され、後の処理、すなわち復号化のために待機状態とされる。暗号鍵抽出部32は、前記受信したパケットの中から暗号鍵を抽出するものである。暗号鍵抽出部32によって順次抽出された暗号鍵は、暗号鍵設定部33に格納される。

【0020】ストリーム復号部34は、受信した各パケット内のデータ部を復号化する。ストリーム復号部34は、図2に示したストリーム暗号部12と同じ構成の復号化手段であり、その線形フィードバックシフトレジスタ20の初期値として、前記暗号鍵設定部33の暗号鍵、すなわちパケットに格納された暗号鍵を用いる。図2の排他的論理和回路22には、非線形関数回路21の出力と、受信したパケット内の暗号化されたデータが入力され、排他的論理和演算される。これによって、暗号化されたパケット内のデータは、順次復号化され、元の平文データが得られることとなる。この場合に、各パケットのデータは異なる暗号鍵を用いて暗号化されているが、暗号鍵設定部33は、各パケットの復号化毎にそれに対応した暗号鍵を設定する。ストリーム復号部34に、複数のパケットの暗号化データが入力され、順次復号化されることによって、元の平文メッセージが完成する。

【0021】以上のように、パケット内にデータの暗号化に用いた暗号鍵をその暗号化データと共に格納することによって、受信者側における鍵管理が不要になると共に、各パケット毎に用いられる暗号鍵が変えられているので、全体としての暗号強度を高められる。

【0022】図5～図8は、本発明の他の実施形態に係

るパケット通信システムに関するものである。本実施形態に係るパケット通信システムにおいては、複数のパケット毎に、用いる暗号鍵を変更し、その暗号鍵を該複数のパケットに分割して格納し、これを送信する。本実施形態においてそのパケット送信装置は、図1に示した先の実施形態における送信装置と基本的に同じ構成を有するが、暗号鍵設定部13及び鍵格納部14の構成において相違がある。すなわち、本実施形態において暗号鍵設定部13は、所定数のパケット毎にストリーム暗号部12に設定する暗号鍵を変える。従って、該所定数のパケット内のデータ部は、同じ暗号鍵を用いて暗号化される。

【0023】図5は、本実施形態における鍵格納部のブロック図を示している。本実施形態において鍵格納部50は、メッセージダイジェスト生成部51、暗号鍵分割部52及び分割鍵格納部53を備える。メッセージダイジェスト生成部51は、入力した暗号鍵のビット列から、ハッシュ値その他のメッセージダイジェストを生成し、これを暗号鍵ビット列の後に付加する。ここで、メッセージダイジェストは、元のデータ、すなわち暗号鍵ビット列に実質的に1対1の関係を持つ固定長データである。メッセージダイジェスト生成部51からは、暗号鍵ビット列にメッセージダイジェストが付加されたものが出力される。暗号鍵分割部52は、前記メッセージダイジェスト生成部51の出力ビット列を、所定数に分割する。以下では、この分割されたビット列を分割暗号鍵という。分割暗号鍵の数は、その対応するパケットの数、すなわち分割暗号鍵の元となる暗号鍵を用いて暗号化されたパケットの数に対応する。分割鍵格納部53は、これらの分割暗号鍵を対応する所定数のパケットに分割して格納する。

【0024】図6は、前記鍵格納部50における処理を示した図であり、ここに暗号鍵が分割され複数のパケットに分けて格納される様子が示されている。この例では、nビットの暗号鍵に基づいて、mビットのメッセージダイジェストが生成され、暗号鍵に付加されている。メッセージダイジェストを付加した暗号鍵のビット列は、この例では、3つに分割され、それぞれ3つのパケットに分けて格納されている。

【0025】図7は、本実施形態におけるパケット受信装置のブロック図を示している。パケット受信装置70において、パケット受信部71、暗号鍵抽出部72、暗号鍵設定部73及びストリーム復号部74は、先の実施形態における対応する構成と同じ機能を有するので、ここではその説明を省略する。パケット受信装置70は、前記各構成に加え、暗号鍵生成部75を有している。暗号鍵生成部75は、前記同じ暗号鍵で暗号化されたデータを含む複数のパケットから抽出された分割暗号鍵から、元の暗号鍵を生成するためのものである。

【0026】図8に暗号鍵生成部75の具体的構成例を

示した。すなわち暗号鍵生成部75は、分割暗号鍵を保持する記憶部80、1つの暗号鍵を構成する分割暗号鍵の組を特定する鍵判定部81及び該判定に基づいて元の暗号鍵を作り出す暗号鍵構成部82を備える。暗号鍵抽出部72によって各パケットから抽出された分割暗号鍵は、記憶部80に順次保持される。鍵判定部81は、先頭より前記所定数（図6の例では3つ）の分割暗号鍵を抽出し、このビット列を結合して、メッセージダイジェストのビット長（例ではmビット）を最後尾から除く。このビット列から先のメッセージダイジェスト生成部と同じアルゴリズムにより、メッセージダイジェストを生成し、除いた最後尾のビット列と比較する。比較の結果、これらが一致すれば抽出された所定数の分割暗号鍵は正しい組であると判断される。これらが一致しない場合、抽出する分割暗号鍵の組を異ならせて同様の処理を実施する。暗号鍵構成部82では、前記比較の結果が一致する場合に、前記結合したビット列からメッセージダイジェストのビット長を除いたものを暗号鍵として構成し、図7における暗号鍵設定部73に与える。前記実施形態においては、暗号鍵が複数のパケットに分割して格納され送信されるので、一層暗号強度が高められる。

【0027】以上、本発明の一実施形態を図面に沿って説明した。しかしながら本発明は前記実施形態に示した事項に限定されず、特許請求の範囲の記載に基いてその変更、改良等が可能であることは明らかである。

【0028】

【発明の効果】以上の如く本発明によれば、暗号鍵の変更の同期を必要とせずに、暗号鍵の変更を実現することができ、同期のずれの問題やハードウェアの負荷の問題を回避できる。また、本発明によれば、受信側における暗号鍵の管理を不要とすることができる。

【図面の簡単な説明】

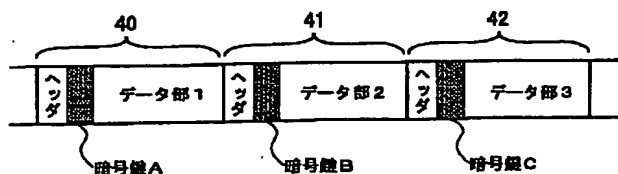
【図1】本発明の一実施形態に係るパケット送信装置のブロック図である。

【図2】図1のストリーム暗号部の具体的構成例を示すブロック図である。

【図3】本発明の一実施形態に係るパケット受信装置のブロック図である。

【図4】送信すべきパケットデータの構成例である。

【図4】



【図5】本発明の他の実施形態における鍵格納部のブロック図である。

【図6】図5の鍵格納部における処理を示した図である。

【図7】本発明の他の実施形態におけるパケット受信装置のブロック図である。

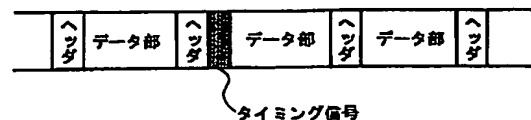
【図8】図7の暗号鍵生成部の具体的構成例を示すブロック図である。

【図9】従来のタイミング信号を用いたパケット通信におけるデータ構成例である。

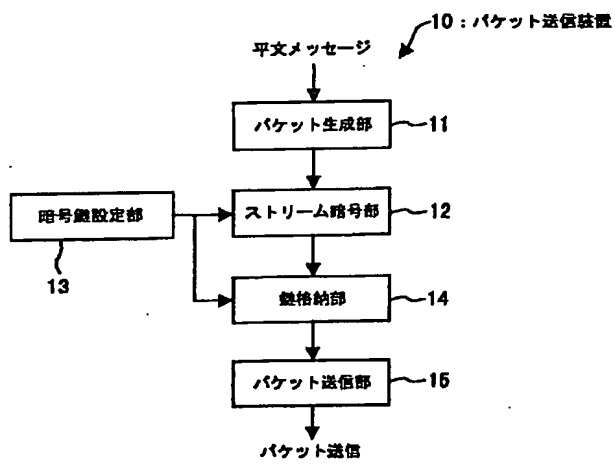
【符号の説明】

- 10 パケット送信装置
- 11 パケット生成部
- 12 ストリーム暗号部
- 13 暗号鍵設定部
- 14 鍵格納部
- 15 パケット送信部
- 20 線形フィードバックシフトレジスタ
- 21 非線形関数回路
- 22 排他的論理和回路
- 30 パケット受信装置
- 31 パケット受信部
- 32 暗号鍵抽出部
- 33 暗号鍵設定部
- 34 ストリーム復号部
- 50 鍵格納部
- 51 メッセージダイジェスト生成部
- 52 暗号鍵分割部
- 53 分割鍵格納部
- 70 パケット受信装置
- 71 パケット受信部
- 72 暗号鍵抽出部
- 73 暗号鍵設定部
- 74 ストリーム復号部
- 75 暗号鍵生成部
- 80 記憶部
- 81 鍵判定部
- 82 暗号鍵構成部

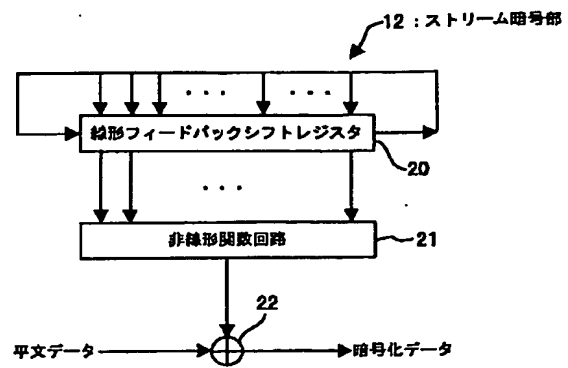
【図9】



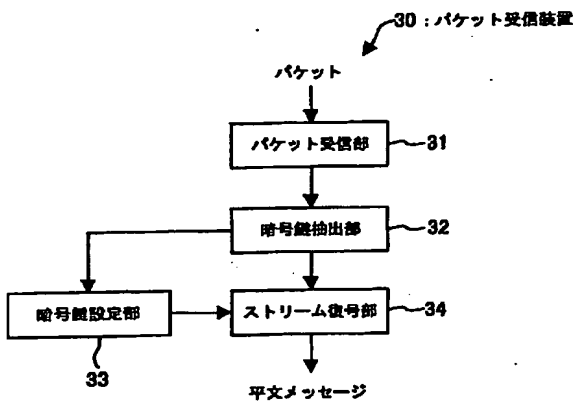
【図1】



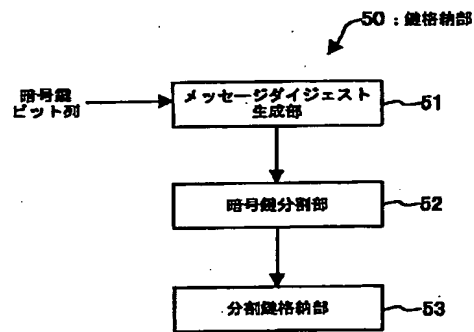
【図2】



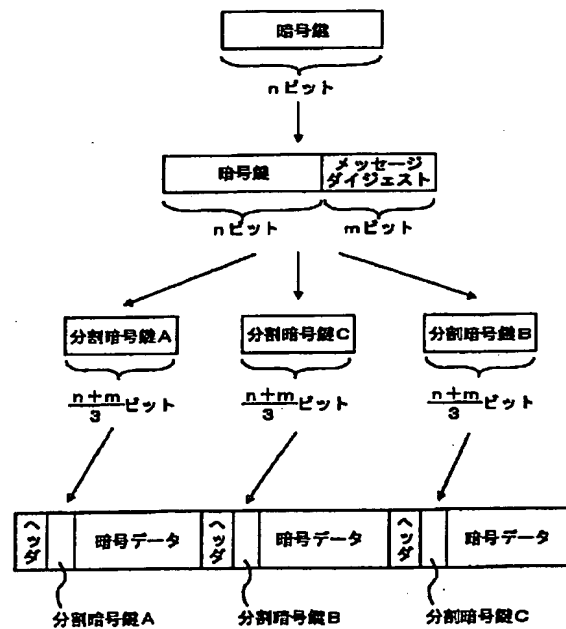
【図3】



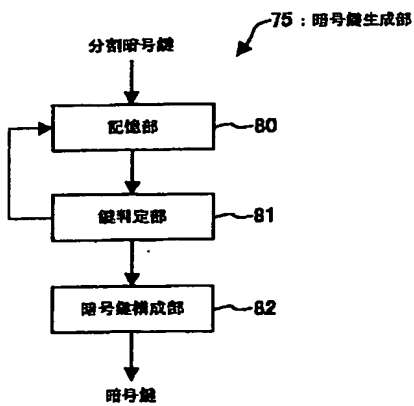
【図5】



【図6】



【図8】



【図 7】

